

小児医療センター

1. スタッフ

センター長(兼)教授 奥山 宏臣
 その他、准教授 1 名、看護師長 2 名、特任事務職員 1 名(兼任を含む。)

2. 診療内容

当センターは、平成 20 年 2 月より、内科系と外科系を含むすべての診療科の小児患者を対象に発足し、12 年目を迎えた。小児及び成育医療のための総合診療部門として 88 床(東 48 床、西 40 床)を運用し、安全かつ質の高い高度先進医療を提供している。

3. 診療体制

東 6 階病棟が内科系、西 6 階病棟が外科系入院を基本方針としており、関連診療科の連携のもと運用している。東西 8 床ずつ(総室各 2 室)で、保護者の付き添いを必要としない小児患者の単独入院診療を行っている。また 6 床の重症回復室を有し、高度救命救急センター、集中治療部、総合周産期母子医療センターで高度集中治療管理を受けた患児の回復期の継続医療を行っている。さらに 3 床の陰圧室及び 2 床の陽圧室では隔離を要する感染症罹患した小児患者の診療及び大量化学療法・造血幹細胞移植を行っている。一方で院内緩和医療センターの一部門として疼痛管理などの適切な緩和医療を提供し、また保健医療福祉ネットワーク部と連携し退院支援を行っている。

4. 診療実績

当センターが発足して以来、一貫して小児科、小児外科、整形外科、眼科、脳神経外科、心臓血管外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、形成外科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、皮膚科の小児入院患者の受け入れを行っている。また豊能広域こども急病センターの二次後送病床としての役割も果たしている。

令和元年度の主な実績は以下のとおりである。

新規入院患者数 1980 人、うち緊急入院者数 248 人、手術件数 1057 件、小児心移植 8 件、小児肝移植 9 件、同種造血幹細胞移植 8 件、年間平均病床稼働率:77.0%。

5. 多職種連携による入院環境の改善

当センターには、院内学級として大阪府刀根山支援学校の分教室があり、小学部・中学部あわせて約 20 名の児童が学習している。在籍児童は年々増加しており、入院して治療を受けながら通常教育を受けることができる。同時に院内学級の教諭が病室を訪ねて行うベッドサイド授業も行っており、児童は状態に合わせた

授業を受けることができる。また入院中から地元校との連携を密におこない、退院時には医療スタッフ、地元校、院内学級教師がカンファレンスを行い、退院後の学習もスムーズに行うことができるよう調整している。

小児医療センターは重症慢性疾患を罹患した患者の入院が多く、多種類の薬剤を使用する症例が多い。当センターでは治療薬の内服困難な児に対し、病棟薬剤師により薬剤の管理、輸液製剤の調剤、服薬指導を行っている。病棟薬剤師より薬剤・治療、起こりうる有害事象について説明を受けることで治療に対する理解が深まり、患児のストレス軽減、QOL 改善にもつながっている。適切な服薬は病状の改善にもつながり、患児と家族から好評を得ている。

また当センターでは病院保育士によりプレイルームにおける集団保育や「抱っこで絵本の会」などを定期的に行っており、貴重な楽しみの機会となっているほか、チャイルド・ライフ・スペシャリスト (CLS) による患児と家族に対する疾患・処置の受容支援活動や年齢の高いいわゆる思春期・若年成人 (AYA) のピアサポート支援がなされている。さらに令和元年には小児医療センター入り口のエレベーターホールに見舞い家族の同伴児童が安全に待機できるよう待合室を設置し、患児と家族のストレス軽減、QOL 改善につながると共に、スムーズな治療の一助となっている。

6. 教育・研修の充実

当センターでは小児診療に関係する多方面の分野から専門家を講師に招き、医療従事者を対象とした小児医療センターセミナーを定期的開催している。セミナーの内容は小児医療センターとしての機能から、内科的・外科的疾患や緩和ケア、退院支援など多岐にわたっており、毎回院内のみならず、院外からも多数の参加者がある。令和元年度は 5 月に院内小児循環器内科医の成田淳医師による「心臓移植の現状と今後」、及び 11 月には院内虐待防止委員会と共催で、山梨県立大学人間福祉学部より西澤哲先生をお招きし「虐待問題から子どもと親を救うために～関係する各専門職種がどう行動すべきかを考える～」と題してお話を頂き、いずれも盛況を得た。その他、小児心肺蘇生と高度救命処置に関するセンター内研修を定期的開催し、医療スタッフの技術の維持向上に努めている。平成 31 年 1 月には独自に作成している「乳児の心肺蘇生テキスト」を改定し、所属スタッフに配布して、スタッフ全員の意識と医療技術の向上に努めている。

7. 地域社会とのつながり

昨年度に引き続き、ボランティア活動やクリニックハウスの訪問などのイベントが行われた。5 月にはミニハンカチ作り、8 月には毎年恒例となった ANA グループによる航空教室でパイロットの姿になっての記念撮影、またクリスマスには OSAKA あかるクラブからプレゼントを贈呈して頂き、小児科・小児外科の教授がサンタクロースに扮して、トナカイやもみの木に扮した医療スタッフとともに入院中の患者にプレゼントを届けて廻った。また茨木ハーモニーライオンズクラブからはおもちゃの寄付を受け、1 月には元阪神タイガース横田慎太郎さんに病棟を訪問して頂き、阪神タイガースのユニフォームのプレゼントとともに交流を深めた。ガンパ大阪からはご寄付を頂き、温かい思いやりのもとで子ども達は闘病しながらも笑顔で過ごしている。

一方で当センターでは、地域医療機関との連携による退院支援、医療福祉相談により病診連携を行っており、円滑な治療の継続、患児の QOL の向上、退院後の生活や診療の不安、経済的不安等の家族の不安解消につながっている。さらに令和元年度は茨木市、吹田市、池田市保健所主催の地域医療ネットワーク会議に当センターから医師・メディカルソーシャルワーカーが参加し、地域医療機関との課題共有及び解決に向けた話し合いに参加した。

このように、当センターでは医多職種間の連携、及び地域社会とのつながりに支えられながら、患児、家族に多角的な支援を提供しつつ全人的医療に取り組んでいる。

8. 施設認定

小児に関する以下の施設認定を受けている。

- ・日本小児科学会研修支援施設
- ・小児血液・がん学会専門医研修施設
- ・日本血液学会研修施設
- ・小児神経専門医研修施設
- ・日本周産期・新生児学会専門医研修基幹施設
- ・小児循環器専門医修練施設
- ・心臓移植認定施設（11 歳未満移植可能施設）
- ・臨床遺伝専門医研修施設
- ・日本内分泌学会認定教育施設
- ・日本外科学会認定施設
- ・日本小児外科学会認定施設
- ・日本形成外科学会認定施設
- ・非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科
- ・脳死肝移植認定施設
- ・脳死小腸移植認定施設
- ・大阪府小児がん拠点病院
- ・日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）参加施設



新設された付き添い児童の待機スペース



クリスマス恒例のサンタ回診